

人手不足への対応と 病院清掃現場経験から見た課題と展望

2025年2月7日

一般財団法人医療関連サービス振興会 第34回シンポジウム

一般財団法人建築物管理訓練センター

専任講師 井上 雄二

1. 所属団体の概要と病院清掃経験

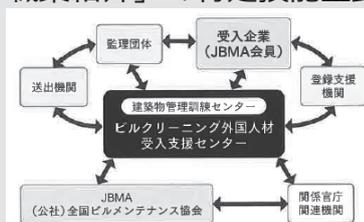
一般財団法人 建築物管理訓練センター

設立：1973年（昭和48年）12月24日（全国協会出資）

目的：建築物管理に関する職業訓練、調査研究を推進。

【事業】

- 職業訓練（ビルクリーニング・ビル設備通信訓練、検定準備講習等）
- 教科書製作（ビルクリーニング、ビル設備管理）
- ビルクリーニングに特化した外国人材の
「職業紹介」「特定技能登録支援業務」「教育訓練」



図表 2-2-2 支援センターのスキーム



一般財団法人 建築物管理訓練センター

2-1.病院清掃経験と課題解決

病院清掃の現場経験

- 清掃責任者として赴任
- 経験期間：1987年7月～1990年10月
- 病院：1983年6月開院、500床（延べ床面積：約3万㎡）
 清掃スタッフ32名（パート含む）

【着任時の課題】

- 床の状態が最悪(開院4年経過) (写真イメージ)
- 病院清掃としての衛生意識不足 (事務所・商業建物と同様の清掃)
- 人手不足：(高齢者退職・バブル景気による求人難)

2-2.病院清掃経験と課題解決

…清掃業務が病院に貢献するための工夫…

【対策】病院が衛生であるための対応

- 病院衛生に必要な業務提案 (床復元や特別清掃:空気環境)
- 清掃スタッフの意識改革：挨拶励行、勉強会の開催
- 副産物：病院との慰労会 (2～3ヶ月に1回)
 (清掃スタッフ全員と院長や看護部長、施設担当者参加)



【成果】

- 床の復元、立体面・空気環境の衛生向上
- 清掃スタッフの挨拶について病院からお褒め
- 特別清掃の受注
- 他病院からの見学者増加

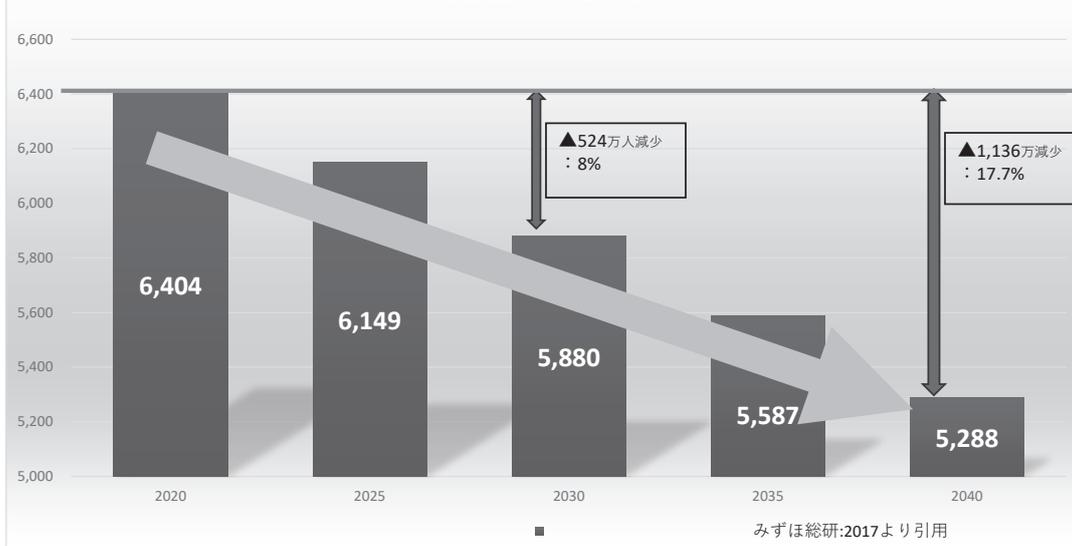
2-3. 病院清掃経験と課題解決 清掃現場の課題の変化

清掃現場の課題の変化

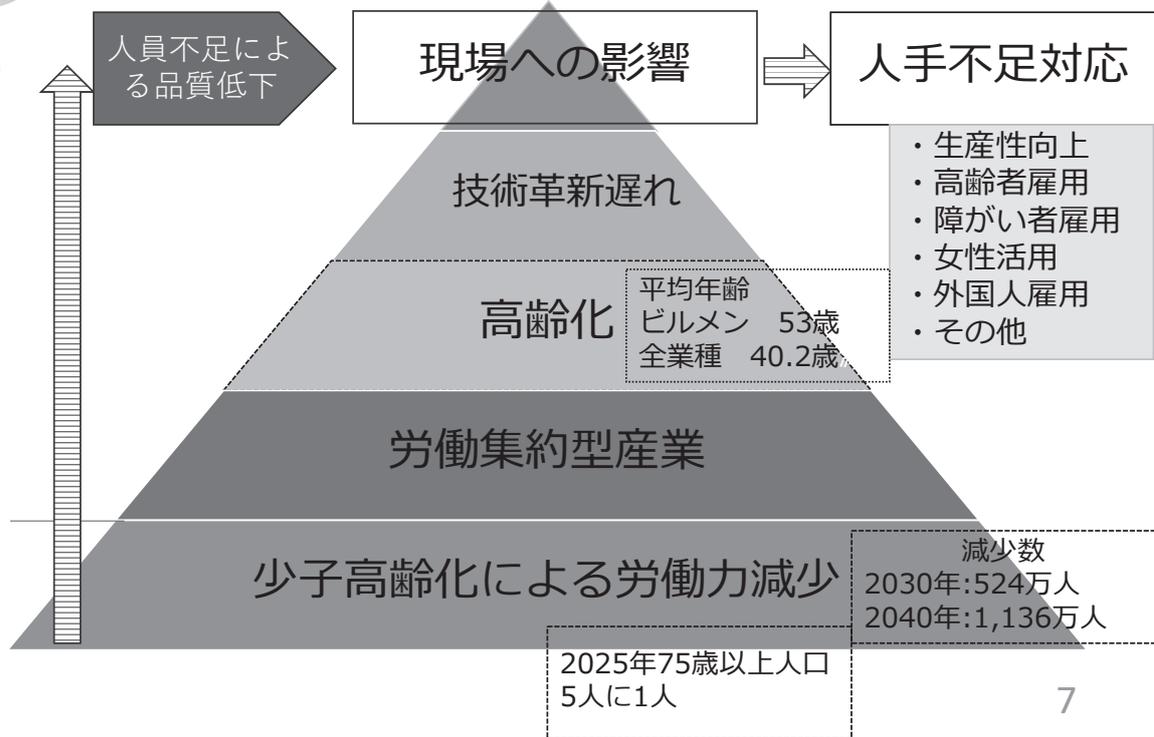
項目	当時（1987）	現在
人手不足	バブル景気による求人難	労働力減少 高齢化、離職率の高さ
感染制御 (消毒等)	病原体に適應する薬剤使用 業界に標準なし	標準予防策（スタンダード・プリク ション）（CDC） 感染制御衛生管理士 （ICCC）：JBMA
病院清掃	業界標準に基づいた各社独 自の清掃 病院清掃技術書なし	医療関連サービス認定 （2008年4月1） 病院清掃基準充実（講習会 テキスト等）

3-2. 人手不足の現状とその影響 労働力人口

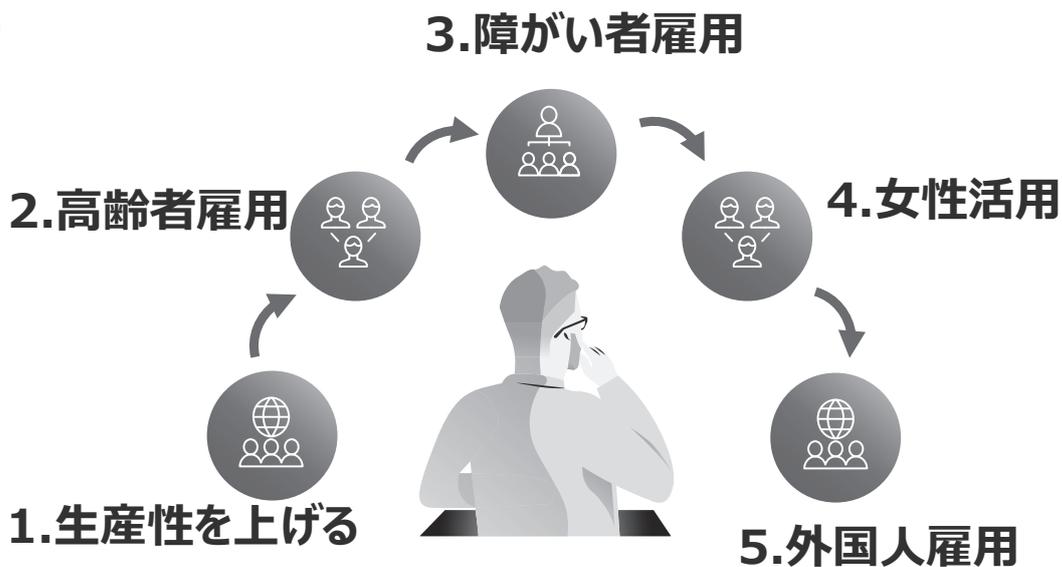
労働力の予測



3-3. 人手不足の現状とその影響 まとめ



4-1. 人手不足への対応について



4-2.人手不足への対応について

生産性を上げる

- 作業の効率、作業工程の見直し
- 機材用具の改善、清掃ロボットやIoT技術の導入
- DX化:業務管理のデジタル化、その他

効率化することによる
人員縮減

質の向上

多様な人材活用（雇用側の例）

- 高齢者雇用.....軽量器具導入:労働災害防止
- 障がい者雇用.....特性に合わせた役割分担
- 女性活用.....勤務の柔軟化
- 外国人雇用.....育成（日本語、技能）と文化的サポート

高齢者も減少

障がいの程度

子育て中

外国人材は20歳から30歳なので生産性が高い

5.今後の展望とまとめ

病院清掃は医療サービスの基盤を支える重要な役割

医療関連サービス職種（医療安全性への寄与：感染制御への寄与等）

患者様と医療スタッフの安心感向上

（病院機能に必要な清掃業務の提案、感染制御に合った作業とマナー等）

人手不足対策

- 生産性向上
- 多様な人材活用

持続可能な業務体制

- 多様な人材が働ける
環境整備
(特に外国人材活用)
- 人材育成
- 業務改善

病院受託者としての責任

- 病院のビジョンを共有し清掃業務がビジョン達成に貢献できるサービスを提供する
(病气やけがを治すための建物)

- 病院内清掃の意義と役割を認識し、医療機関と業界双方で未来に向けた患者様サービス向上の取り組みを推進してほしい。
- 医療機関と清掃業界・業者間の情報共有強化。